

資源環境研究課 令和7年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
1	(森林更新) 日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発	航空レーザ計測 (ALS)、森林GIS、機械学習を組み合わせた新たな樹高成長推定手法を利用して、従来の地位指数にかわる新たな林分成長指標・炭素蓄積指標を推定する技術を開発する。	R5 ～ R9	森林資源・ 鳥獣
2	(森林更新) 森林評価の効率化を目的とした航空レーザデータの活用技術開発	航空レーザデータを活用した推定材積と実材積を比較し、精度検証を行う。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
3	(森林更新) エリートツリーを活用したスギコンテナ苗短期育苗技術の開発	林業用苗木を安定供給するため、スギのエリートツリーについて、種子の性能や育苗時の最適な環境条件を検証し、短期育苗技術を確立する。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
4	(森林更新) 植栽木の獣害対策を目的とした防護柵の機能向上	新規植栽地には防護柵が設置されるもののシカ等の防護柵内侵入により、植栽木の食害が全県で発生していることから、地際部やネットの防護機能を向上し、シカ等の防護柵内への侵入を抑止することを目的とする。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
5	(森林更新) 造林作業の省力化に向けたスギコンテナ苗の植栽時期の検討	スギコンテナ苗の初期成長促進を目的に、秋植栽による形状比の低減が、翌春からの樹高成長促進にどの程度貢献するのかを検証する。	R6 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
6	(木材) スギ大径材を活用した接着重ね材の開発	公共建築物等の大空間が求められる木造建築物へ県産材の利用促進を図るため、スギ大径材を活用し、正角材を貼り合わせることで大断面を作り出せる接着重ね材を開発する。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
7	(木材) 耐水性のある木材の難燃化技術を活用したスギ準不燃集成材の開発	認定製品は、スギ辺材に限定されているが、製材歩留りの向上を図るため、スギ心材の利用も進め、スギ集成材に準不燃性能を付与し、新たな難燃化商品を開発する。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
8	(木材) スギ・ヒノキを活用したハイブリッド集成材の開発支援	徳島県産スギと香川県産ヒノキとのハイブリッド集成材を製品化するため、課題となる技術開発の支援を行う。	R7 ～ R9	森林資源・ 鳥獣
9	(キノコ) 菌床シイタケ栽培の生産性を向上させる水分管理技術の確立	菌床シイタケ栽培の生産性の向上のため、菌床の水分量の管理について明らかにし、温度・換気条件と組み合わせた栽培管理を提示する。	R5 ～ R7	森林資源・ 鳥獣
10	(キノコ) シイタケ廃菌床を利用した栽培技術の確立	廃菌床を培地資材として栽培に使用するサイクルを確立し、広葉樹おが粉購入費削減による経営の安定化を図る。	R6 ～ R8	森林資源・ 鳥獣
11	(キノコ) ナラ枯れの被害推移調査と被害木がきのこ栽培に与える影響及び「匠の技」発生工程の再現試験	①本県のナラ枯れ被害の発生から終息までを調査し、今後新たにナラ枯れが発生した場合の被害対策の効果的な実施に寄与する。 ②「匠の技」の栽培条件を明らかにして、多くの生産者が利用可能な指針として提示する。	R7 ～ R9	森林資源・ 鳥獣
12	(緑肥・露地野菜) 本県農作物に対応した緑肥による肥料コスト低減技術の開発	国際的な需給ひっ迫等による肥料価格の高騰に対応するため、本県農作物の栽培体系において、肥料コストの低減を主目的とした効果的な緑肥利用技術を確立する。	R5 ～ R7	生産環境
13	(サツマイモ) なると金時貯蔵性向上のための栽培管理技術の確立	なると金時の貯蔵障害「ス入り」を低減させるため、ス入り発生と栽培条件（排水性、施肥法、系統等）との関係を明らかにし、対策技術を確立する。	R4 ～ R9	生産環境
14	(農作物全般) 土壌モニタリング調査	県内の農業用土壌を適正に維持するため、作物別に分類した約150地点について、5年ごとに養分蓄積や肥培管理の状況を調査する。	H25 ～	生産環境

資源環境研究課 令和7年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
15	(水稲・ホウレンソウ・サツマイモ) 土壌型別有機資源連用試験 水田(水稲一刈り)・ 砂地畑(サツマイモ)	作物に適した肥培管理方法を確立するため、施肥の差が作物の生育・収量品質及び土壌に及ぼす影響について、調査する。	H24 ～	生産環境
16	(農作物全般) 地力調査	県内農地の地力の実態を把握するため、土壌モニタリング調査および有機質資源連用調査(粘質水田および砂地畑)の対象農地について、土壌の物理性、化学性及び土性等を調査する。	R5～	生産環境
17	(サツマイモ) 手入れ砂効果持続方策の検討	なると金時栽培に不可欠な「手入れ砂」の安定確保を図るため、新たな素材の活用を含めた調査研究を行う。	H29 ～	生産環境
18	(農作物全般) 肥料分析検査	肥料の品質の確保等に関する法律に基づく適正な肥料の生産流通を図るため、肥料の内容成分の検査を実施する。	H13 ～	生産環境
19	(堆肥) 県内生産家畜ふん堆肥分析 調査	肥料の品質の確保等に関する法律に基づく適正な家畜ふん堆肥の生産流通を図るため、畜産農家が製造販売する家畜ふん堆肥の内容成分を調査する。 堆肥計2点(牛ふん1点豚ふん1点)について、表示が義務づけられている窒素・リン酸・加里・水分含量等の分析を行い、結果を報告した。 引き続き、家畜ふん堆肥の内容成分の分析を行う。	H17 ～	生産環境
20	(ナシ) ナシ基肥時期変更と超省力 施肥技術の確立	ナシの発芽不良および肥料の溶脱を抑制するため、冬季基肥の春への移行が開花状況や収量、果実品質、土壌化学性等に与える影響を調査する。また、施肥の省力化に向けた取組として、ドローンによる全量基肥施肥について検討する。	R6 ～ R8	生産環境
21	(有機農業) 有機JAS取り組み面積拡大 に向けた有機施肥体系の確 立	有機農業・減化学肥料の課題に土壌肥料的見地から面積拡大に向けて取り組み、県内で最も栽培面積の広い水稲-ブロッコリー栽培体系に適応する有機施肥体系を確立する。	R6 ～ R8	生産環境
22	(水稲) 鉄資材による水田メタン削 減に関する調査	水田からのメタン発生を抑制する技術として、鉄資材の利用が注目されている。土壌に施用された鉄が、酸化剤として機能することで土壌の還元が遅くなり、メタン発生が抑制される。本技術が本県においても有効であるかを検証する。	R5 ～ R7	生産環境
23	(レンコン) レンコンの収量増加に向け た施肥技術の確立	近年低下しているレンコンの収量を回復させるため、現地での実態調査から最適な肥培管理法を確立する。	R7 ～ R9	生産環境
24	(輸出) 輸出相手国での残留農薬対 策事業	農薬の使用基準や検疫条件等が異なるEU等への農産物の輸出を拡大するため、輸出する農産物の輸出前残留農薬を検査する。	H26 ～	食の安全・ 総合防除
25	(特産作物) マイナー作物農薬登録拡大 試験	全国的に生産量の少ない作物への農薬適用拡大を図るため、本県特産作物を対象にした薬効・薬害・作物残留に係る試験を実施する。	H17 ～	食の安全・ 総合防除
26	(スダチ・リーフレタス) 地域特産品における農薬の 安全性評価	より安全な農産物の生産を推進するため、ハウススダチ・リーフレタス等の農薬残留特性を解明し、安全性の評価を行う。	H19 ～	食の安全・ 総合防除
27	(サツマイモ) ガスバリアー性フィルムを用 いた土壌くん蒸剤の使用 量低減を実装する実証試験	ガスバリアー性フィルムを用いてクロルピクリンの処理量の低減を様々な条件の現地ほ場で実証し、使用量低減を図るとともに、クロルピクリンと1、3-ジクロロプロペンの混合薬剤を用いた低減策を検討する。	R6 ～ R7	食の安全・ 総合防除
28	(サツマイモ) 土壌くん蒸剤使用量減少効 果等の調査事業	クロルピクリン処理時にガスバリアー性フィルムを用いることで使用量の低減や環境リスク低減ができる知見が得られている。そこで、処理間隔を慣行より広げることによる防除効果、クロルピクリンの挙動を調査し、処理量の低減を検討する。	R7	食の安全・ 総合防除

資源環境研究課 令和7年度取組み課題一覧

No	(品目) 課題名	研究内容	研究期間	担当
29	(イチゴ・ネギ・ブロッコリー) IPM推進に向けた技術開発	化学農薬に過度に依存しない総合的な病害虫防除技術 (IPM) の推進を図るため、ブランド品目に係る防除体系を確立する。	H17 ～	食の安全・ 総合防除
30	(農薬) 新農薬実用化試験	農薬の適用拡大の資料とするため、登録に必要な防除効果や薬害、作物への残留について試験を実施する。	S28 ～	食の安全・ 総合防除
31	(ブロッコリー) ブロッコリー黒すす病の伝染環の解明と効果的・省力的な防除体系の構築	ブロッコリー黒すす病の発生要因や伝染環を明らかにするとともに、効果的・省力的なブロッコリー防除体系の構築を目指す。	R6 ～ R8	食の安全・ 総合防除
32	(トマト・ミニトマト) 徳島県内の促成作型トマト・ミニトマトに対応したタバコカスミカメ利用技術の確立	ミニトマト栽培において、タバコカスミカメの個体群密度を調整する利用技術を確立するとともに、大規模トマト養液栽培施設におけるタバコカスミカメの温存増殖方法と離脱・拡散方法を生産現場で確立する。	R5 ～ R7	食の安全・ 総合防除
33	(イチゴ、トマト、ハウスすだち) 常温煙霧法による県ブランド作物新規省力防除技術の確立	施設栽培では防除作業の「省力化」が進んでいない。これまでにイチゴに対する常温煙霧法による「省力化」について、一定の知見を得ることができた。そこで、イチゴに加え、「トマト」、「ハウスすだち」を対象に県ブランド作物の省力化技術を確立する。	R7 ～ R9	食の安全・ 総合防除
34	(レンコン) AIとドローンを活用したレンコン加害害虫の早期発見・防除技術の開発	AIを活用してレンコンに対する加害害虫を認識して、ドローンを用いて被害株を迅速に把握する技術を開発するとともに、既存の登録薬剤を用いて効果的な防除技術の確立を目指す。	R5 ～ R7	食の安全・ 総合防除
35	(モモ) 相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立	クビアカツヤカミキリの産卵阻止・拡散阻止技術を開発し、生産現場で実装する。 白色ネット及びシートの産卵阻止、幼虫の食入阻止効果を室内試験で確認した。また生産現場でも同資材の産卵阻止効果が高いことを確認し、特に白色シートはコストも低く抑えられた 拡散阻止効果、産卵阻止効果に優れ、かつ扱いやすい資材や処理方法を現場で検証する。	R4 ～ R7	食の安全・ 総合防除
36	(輸出) 植物検疫上の要求事項を満たすための体制の構築委託事業	輸出相手国が侵入を警戒する重要病害であるカンキツかいよう病に関し、相手国から求められる従来の検疫措置について、輸出産地により負担の少ない条件の検討 (試験・調査等) 及びとりまとめを行う。	R7 (R6から継続)	食の安全・ 総合防除
37	(鳥獣害) フルシーズン対応型ロボットドローンの開発による鳥獣被害防止とセンシングデータを利用した生産性向上	生産現場のニーズに合わせてカスタマイズが容易な国産ドローンの開発と、生産現場が抱える鳥獣被害対策等について、現地実証をセットで取り組むことで周年利用体系を確立し、これまでにない低コストで利用できるドローンビジネスを構築する。本県ではレンコンの定植時の食害防止について、現地実証試験を行う。	R5 ～ R7	食の安全・ 総合防除
38	(イチゴ) イチゴにおける有機JAS適合病害虫防除技術の確立	有機農業の面積拡大に資するため、促成イチゴ栽培で問題となっている病害虫を対象に有機農業版IPM技術の開発を行う。	R6 ～ R8	食の安全・ 総合防除
39	(サツマイモ) 環境低負荷型の化学農薬施用技術の開発	環境低負荷型の化学農薬施用技術の確立に向け、土壌くん蒸剤の適切な効果を発揮させるための深層施用技術及び土壌内の病害虫防除効果の持続性を生産者が簡易に判別できる指標の開発を行う。徳島県はサツマイモのクロルピクリンくん蒸剤を対象とする。	R7 ～ R9	食の安全・ 総合防除